作業科学入門
生活と人生をかたちづくる作業のみかた

福島県立医科大学 保健科学部　川又　寛徳　先生

海野　ミカ（３６０４）

私は将来、臨床工学技士になりたいと考えています。そのため、今回の半日総合大学の講座のリストを見て、保健科学部に目が止まりました。その内容としては、作業療法士についてですが、臨床工学と同じ保健科学として何かしらの知識を得て、今後に生かせるのではないかと思いこの講座を受けました。そして、今までやこの先もずっと行うことになる色々な作業について今までとは違った視点からみることができました。その中でも印象に強く残った三つの事をこの講座を聞いていない人にも知ってほしいと思いました。

一つ目は、「二〇四五年問題」についてです。これは二〇四五年をめどにＡＩ（アマゾンエコー、ルンバなど）が人間の知能を超えることです。この二つが逆転する点をシンギュラリティといい、人間が仕事を失うことを表しています。また、代替されにくい職業の特徴として、創造的思考・ソーシャルインテリジェンス・非定型があげられます。そして、作業療法士もそのすべてにあてはまるそうです。

二つ目は、障害を持った人にとって、今私たちがあたりまえのようにしている作業・行動は特別なものだということです。私たちは頸髄損傷によって作業が制限されてしまったという女性のビデオを見せていただき、そのビデオ中で作業療法士の存在意義を知ることができました。例えば、障害を持った人の今出せる最大限の力というのは作業療法士によって導かれることで発揮することができることなどです。その中でも、作業の持つ意味は障害の有無にかかわらず、それぞれだということが一番印象に残りました。

三つ目は、その人らしさ、自分らしさにつながる作業をすることはすべての人の権利であるということです。人々は何かしらの原因によって作業をさまたげられることがあります。そのために作業療法士が存在していると知って生きているすべての人に直結する仕事なんだと改めて実感しました。

最後に今回の半日総合大学で保健科学における視野を広げることができ、川又先生が講義の最後に大学について少しお話してくださったので今日からの受験勉強にもより、力を入れたいと思いました。

橘　志都（２２２８）

初めに紹介していただいた「二〇四五年問題」は知っていたが新ためて聞くと少しゾッとする話だ。自分達のために作り、育ててきたＡＩに知能が超され追いやられる未来。だが、しかし、非定型的な仕事である人と接し、人に合わせた仕事であるリハビリ職は代替されにくいと聞き安心した。そして、未だ人間の特権である臨機応変を伸ばしていきたいと思った。

グループワークでの仕分けや「箸でラーメンを食べたい」の動画を通して同じ作業一つとっても込められた思いや重点が違えば支援の仕方も人それぞれだと思った。ただなんとなく解く問題と、解き方を覚えようと集中して解く問題。後から復習した時にどちらが覚えており、解きやすいかは一目瞭然だろう。また、何ができなくて何ができるか、も加われば、工夫の方法もよりはっきり見えてくるはずだ。支援を受ける人の希望にそって支援してあげるのが重要だと感じた。目標も決まっていればモチベーションも上がり、さらに効率も上がる。そして達成できる、この循環を伝えてあげるのも仕事の一つだろうと感じた。

間違える脳・間違えないコンピューター

茨城大学 工学部　矢内　浩文　先生

小澤　美結（３７０９）

今回の講座を受けて、人間とコンピューターそれぞれの間違いに関して深く知ることができた。

間違いという言葉にも、様々な意味や種類があり、状況・場面において違っていることが分かりました。脳は柔軟性に価値があり、コンピューターは間違えないことに価値があるという言葉に、コンピューターは商品みたいだと思いました。一度与えた不信感は、コンピューターの力だけでは取り戻すことができず、人間の手を借りることで、信頼を取り戻していくのだと思いました。

いくつか行った実験の中で、一番印象に残ったのはストループの色の識別実験です。パッと見て分かっているはずなのに口に出るのは違う色の言葉で、すごく驚きました。人間がよくやってしまう〝つい、うっかり〟は、よくテレビで流れるニュースで、交通事故を起こしたドライバーや、事件を起こした犯人などが、「うっかり間違えた。」「ついやってしまった。」と言います。つい、うっかりなどの間違いは、自分自身の成長のきっかけや糧になるものもある反面、取り返しのつかないことを行ってしまう危険性のあるものだと思いました。

自分は、小さい頃から抜けていて、日々の流れで毎日行う動作の中に誤作があると、うまく対応できません。たとえば、いつも置いている所にあるお弁当がその場所にないと、忘れてしまったり、ランドセルを背負った後、急にトイレがしたくなり、入った後にランドセルを背負わず、そのまま集合場所へ行って遅刻してしまったり、ということがあります。皆はどうか分かりませんが、ルーティーンからはずれたことをすると間違いが起こってしまうと思っています。

最後に先生が残した言葉で「To err is human to forgive divine 誤るは人、許すは神」とありますが、私はその言葉に深い感銘を受けました。すごく人間というものを表していて、間違いに対する受け取り方を示した言葉だと思います。人は間違って成長して、そのことをしっかり理解して、人の成長を受け入れることが、とても大切なんだと思います。コンピューターも同じで、コンピューターも人間と同じように受け入れられ、成長の機会を何度も与えることで、よりよい社会に、よりよい未来につながると思いました。

間違いを恐れず、たくさんの問題を解いて、たくさん間違って希望校に合格できるようにしたいと思いました。そして人としても成長できるようにしたいと思いました。

鈴木万優子（２７１６）

矢内浩文先生の話を聞いて、コンピューターと人間の脳の特徴とその価値について知ることができた。

人間の脳には柔軟性に価値があり、コンピューターには間違えない（スリップしない）ことに価値があるということを知った。

そして、その中でフィリングイン（filling in）ストループ効果（stroop effect）、書字スリップについて学んだ。フィリングインというのは情報が欠落（エラー）が大きな障害にならないと同時に見える情報が全体の代表であると思い込むことでストループ効果というのは情報の干渉、書字スリップなど今回の授業で脳について少し深く知ることができた。

そして、エラーを通してのコンピューターと人の信頼感というのが私の中で、強く印象に残った。それはコンピューターは一度でも間違えると人間から信頼を失うが、人間は一度でも間違えても他の人間からの信頼は失うことはないということだ。このことを聞いたとき、たしかに言われてみればそうだと感じた。

エラーの意義について、人は失敗しないようにするが、その失敗つまりエラーによって何がちょうどいいのか分かる。またエラーは能動的、積極的、創造的であることの表われだと聞いて何にでも積極的に取り組んでいこうと思うことができた。

最後にエラーとの向き合い方で、極軸からすれば、この世にエラーのないものはなく、「エラーを以てエラーを制す」「To err is human to forgive divine. 誤るは人、許すは神」という矢内先生の最後の言葉がとても印象に残った。

メディア文化メジャー入門

茨城大学 人文社会科学部　村上　信夫　先生

吉田　栞（３４３８）

メディアコミュニケーションが充実し発展しているなかで、人とのつながりだけでなく、私たちの生活も変化していると今回の講義を通して思った。今、私たちはスマホがあるのが当たり前で、どこにいても、何をしても、スマホに頼って生活している。小・中学生の頃の自分が暇な時間は何をしていたのか、友だちとどうやって待ち合わせをしていたのか、分からないことは何で調べていたのか、ほとんど思い出せない。それだけスマホの影響力が大きく、依存性が強いということがわかる。これはよく考えればとても恐ろしいことだ。いつでも検索ができるから記憶力は低下する。人との「つながり」も、多様性をもった「寂しい」「心配」などの感情を検索し、同じ人を見つけて安心する。好きなこと、興味があること以外は無関心。このような感性の変化がメディアコミュニケーションが発達することにつれて起こっている。

また、常識も失われてしまう。スマホやＬＩＮＥの普及によって、電話のしかたがわからない人が増えてきている。人の家に電話をしていい時間帯や目上の人に対する言葉づかいなど、通過儀礼として学べるはずのルールやマナーを知らないまま大人になってしまう人であふれた世の中になりつつあるのだ。

「新しいテクノロジーは、社会だけでなくそれを使う人の思想までも変える」という言葉が、とても印象に残っている。メディアコミュニケーションが発達することはいいことだが、それをどのように利用するかをもっと考える必要があると、改めて思った。

油座　遼奈（２４３３）

私はＬＩＮＥ派に手を上げました。しかし話をきいていくにつれ、確かに少しおかしな考えをしていたな、とも思えました。あたりまえだと思っていたことを、一歩引いたクリアな視点で見てみると、全く気が付かなかったような疑問点が上がってくるのだから、本当に面白いと感じた。

まず、講座をきいていて最も共感したことは音声・文字コミュニケーションの話でした。ＬＩＮＥ（特に仲の良い友人との）だと、最近はポツポツと短文の会話になり、相手が今どんな感情なのかを受けとりきれない事が多々ある。たまには、電話での声のやり取りをするのも悪くないと思いました。

次に印象深く残った言葉は、人と人（リアル）のコミュニケーションよりも文字を選んでいる。リアルとの解離というもので、これは少し勿体無いことをしているのではないか、と思いました。ＡＩやコンピュータのように、信号やメモリによって瞬時に情報の共有・伝達ができないのは私たちヒトの欠陥であり、良い所でもあるのではないかと考えました。面と向かって、又は様々なツールを使い表現をしなければ、互いを理解し合えない。そのシステムがあるからこそ、ヒトは関り合い多くのことを思考し、成長、発展が出来たのではないか、と。（本題からはズレてしまった気がしますが）

私はＬＩＮＥ、非同期コミュニティーによって、私達が変わってしまったこと、これからも変わっていくであろうこと、は悪くないと思います。あまりにも堕落してしまっては困るけれど、各時代で、変化に適応し、自分を見失わない程度に柔軟な人間でありたいです。

最後に、講座全体を通して聞いて、とても専門性の高い話が大学では聞けるのだ、と楽しみになりました。ありがとうございました。

外国語として日本語を教えてみよう！

茨城大学 全学教育機構　瀬尾　匡輝　先生

遠藤　夢歩（３１１０）

普段何気なく使っている日本語だが、外国人の立場になって考えてみると色々な点に気づくことができた。テレビやラジオでニュース番組を聞いている時、何か作業をしながら聞くことが多い。その時に自分の手元に原稿はないし、難しい言葉で説明されると理解しにくい。日本語が母語である日本人でさえ難しいと感じる言葉を外国人が理解できるとは思えない。だから「やさしい日本語」というものがもっと普及されると良いと思った。ＮＨＫでは、阪神淡路大震災時、外国人の死傷者の数が日本人よりも多いという問題に対して、地震速報などのニュースでやさしい日本語の表記をしている。避難してください。をすぐにげて、避難所を安全な場所、というように誰でも分かりやすいようにする工夫している。重要度の高い情報のみ伝える、あいまいな表現は避ける、難しい語は言い換える、漢字の使用量に注意しふりがなをふる、文の構造を簡単にする、単語ごとに表記する「分かち書き」にする、などを行うことによって外国人の震災犠牲者を減らせるというものだ。日本は自然災害がとても多い国だ。少しでも多くの人が避難できるようにこの取り組みが広がれば良いと思った。日本で暮らしている外国人は、震災時の避難以外にも、言語の壁によって困っていることはたくさんあるのだ。まず、日本語を勉強している人は何の目的で勉強しているのか。それは、ほとんどが学習目的で日本語を勉強している。日本の学校に進学し、日本の会社に勤める外国人はとても多い。これからも増えていくだろう。しかし彼らには多くの課題がある。例えば、家族単位で日本へ移住した外国人がいるとする。彼らは、当然生活するため働きに出る。そして子どもがいる場合は学校へ通学する。ここでいくつか問題が生じる。親は自分たちの母国語を使用している。しかし子どもは日本語の教育を受ける。子どもが分からない問題を親が教えることはできない。なぜなら親は日本語の教育を受けていないからだ。ここで家族間のコミュニケーションに溝ができてしまう。もう一つの問題点としては、子どもが学校から持ち帰ってきた連絡文書を親が読むことができないというものだ。大切な文書であっても、言葉の壁によって理解することができない。それでは学校運営に参加したくてもできない。日本語が分からない人用に作成する必要も出てくるのではないだろうか。そして最も多くあるのは、差別やいじめといった問題であろう。このような問題の改善に向き合っていくべきである。それと同時に、日本語教育の水準の向上にも努めるべきだと思う。

現在の日本の人口は減ってきている。少子高齢化も進み、働き手が少ない日本にとって、外国人労働者は貴重な人材であると思う。だが、ここにも問題は生じる。外国人の住めるアパートが少なかったり、職場で差別されたり、他の労働者と比べて賃金が安かったりと、理不尽な思いをしている外国人労働者はかなり多いだろう。しかし彼らのおかげでトラック運転手やとび職など、日本人の働き手が減っている職業が成り立っているということを忘れてはいけない。外国人労働者の受け入れ体制の見直し、改善が最も優先すべきところだと思う。働くとはいっても人と人とのコミュニケーションは必須である。やはり行き着く先は「やさしい日本語」なのではないだろうか。子どもにも高齢者にも、そして外国人にも分かりやすいやさしい日本語を普及させることによって、誰でも住みやすい安全な日本を作り上げることができるのではないだろうか。

後藤　結衣（２４１０）

今日は、いつもと違った見方で国際問題について考えることが出来ました。日本語を学ぶ目的について考えてみると、様々な目的があることに気づくことが出来ました。特に、就学と仕事の面が特に印象に残りました。仕事面では、人々の行き来が多様になったため外国人が多く来日し、日本も外国人を労働力として求める形となったんだと思います。

講義中、議題となった地震などの緊急事態の時の情報伝達について、「やさしい日本語」に直す事をやってみましたが、少し難しい面がありました。外国人がどのレベルまで日本語を理解しているのかを考えながら文を考えてみましたが、うまく変換することが出来ませんでした。「これ／それ／あれ」についても教え方を考えましたが、日本語と英語の意味の捉え方が違うので、すぐには思い浮かびませんでした。ビリーフについても、グループごとに意見を出しましたが、やはり一人一人考え方が違うので、多少のズレはありました。

外国人が日本で生活することに対して、会話スタイル、差別、金銭面などの不安があるというデータを見た時、会話スタイルについては、今日私たちが教わった「やさしい日本語」をもっと積極的に使うべきだなと感じました。

多少の見方の違いで、外国人側から見た日本語というのが分かりました。今日は本当に有意義な時間になりました。自分の進路の決断にもビリーフを入れていきたいです。

行動神経科学（実験心理学）への招待
―脳とこころの関係を学ぼう―

筑波大学 心理学類　山田　一夫　先生

遠藤　愛和（３５０４）

心理学＝文系というイメージがあったが行動と脳の関係、行動神経科学への招待ということで、脳や科学だから理系でも学ぶものがあるのではないかと思い、この講座を受けてみた。実際、カウンセリングのことではなく、今自分が生物の分野で習っている範囲であった。とても聞きやすかった。関係のないことだが、マウスよりもラットの方が頭が良いという点に、なぜかとても驚いた。なぜなら、よく教科書ではマウスが実験で使われる。しかし、思い返してみれば単純な行動、あたり前の行動ばかりであった。実験によってどちらを使うかが分かれていることを理解できた。自分は将来、ネイチャーに論文を載せられるような研究者になりたいと思っている。自分の中で最も研究したいのは人を救える細胞や免疫、しくみを開発したいと考えている。たくさんの治らない病気がなぜ起こるのか、それを治すにはどうしたらいいか、など人間の今の歴史を変えていきたいと思っている。しかし、いきなり人間で研究するのは、不可能だ。今回の講座で学んだのは、なにか疑問に思ったことを調べていってその積み重ねで大きな一つの論文を発表できるはずだ。私は、まず疑問に思うことが必要だと考える。そうでないと何も始まらないとまで思うのだ。

ここで講座の内容について触れておくと、興味をもった記憶における海馬の役割だ。この講座を聞くまで、自分は覚えることは難しい、と思っていた。しかし、覚えないといけないと脳に思わせるほどそれは覚えていくものだと学んだ。固定と再固定についてもっと詳しく聞いてみたいと思えるほど、興味深い内容だった。その記憶において重要なのが海馬である。海馬は授業でさらっと触れたのみだった。しかし、記憶を固定する面で最も重要であることを知った。ヒトよりもラットの方が大脳が小さいため、海馬を必要としているのも分かる。この講座を聞いて、受験勉強の仕方を変えるきっかけとなった。まずは、ヒトはおよそ七つの情報しか覚えることができない。それを分けて覚えたりして脳に入れている。しかし、その覚えた情報も数分後には忘れてしまうと教わった。なので私は、例えば一〇個覚えたら必ず一〇分後に復習して、さらに寝る前にも復習しようと思う。その時に、ケータイは絶対に見ないこと！私達が思っている以上に脳にとって情報が多すぎるので、せっかく覚えたことが固定されにくくなってしまう、それは非常にもったいないことだ。だから私は朝一にちらっとケータイを確認するだけにしようと心に決めた。あとはＸＸつまり女性がベースで突然変異でＸＹ（男性）が生まれたことやアンドロゲン（男性ホルモン）が少ないとＸＹでも女性の体に生まれたり、ホルモンの量によって違う姿になることも初めて学んだ。母性についてはさらに研究が進みそうで楽しみだなと感じた。

この講座をきっかけに自分は研究者なるんだという気持ちをさらに高めることができた。生物で学習、記憶、条件づけ、動機づけを学んだが、どれも最初はとても小さなことであった。そこからさらに疑問が増えて一つの問題が解決する。このことって本当に素晴らしいと思う。大学の世界に足を入れたら正解のないものばかりだ。自分がもっとも興味がある学問を見つけて、そのことについて研究できたらいいなと思った。自分の将来の道の確立、固定概念からの脱却、生物への意欲の三つをかなり高めることができた。この度は本当にこのような素晴らしい講座をしてくださった筑波大学の山田先生には感謝したい。本当にありがとうございました。この講座を生かして受験勉強に励んで、自分の大好きな生物という分野を極めていきたいと思いました。（勉強中と寝る時に同じ匂いをか